

令和2年度第4回 京都市市民参加推進フォーラム 摘録

■開催日時：令和3年2月17日（水） 午後3時00分～午後5時00分

■開催場所：Web会議（委員）

SDGs・市民協働推進担当執務室（事務局）

■議題：

- （1）市民意見募集（パブリック・コメント）の実施結果について
- （2）第3期京都市市民参加推進計画（案）について

■報告事項：

- （1）令和2年度第1回市民公募委員サロンの開催結果について
- （2）市民参加に関係する新しい事業や取組について

■公開・非公開の別：公開

■出席者：市民参加推進フォーラム委員14名

（荒木委員，乾委員，内田委員，金田委員，兼松委員，木村委員，嶋倉委員，菅谷委員，角田委員，橋本委員，壬生委員，森川委員，森実委員，森本委員）

■傍聴者：1名

■特記事項：

動画共有サイトYouTube（ユーチューブ）を利用し，後日，音声配信を実施する。
Zoomを用いたWeb会議形式で開催した。

【議事内容】

1 開会

2 新委員紹介・座長挨拶

<事務局>

議事に先立ち，1月から新委員に就任いただいた角田委員にご挨拶をお願いしたい。

<角田委員>

公益社団法人京都青年会議所の角田です。これから色々とキャッチアップしていきたいと思うので，よろしくお願ひします。

<内田座長>

事務局から議題と本日の流れについて説明をお願いします。

<事務局>

(議題の説明, 資料確認, 時間配分について説明)

3 議題

議題(1) 市民意見募集(パブリック・コメント)の実施結果について

<内田座長>

それでは、早速、議題1「市民意見募集(パブリック・コメント)の実施結果について」に入りたいと思う。まず、事務局から資料の説明をお願いします。

<事務局>

(資料1「第3期京都市市民参加推進計画 骨子案」についての市民意見募集(パブリック・コメント)の実施結果について」説明)

<木村委員>

300件を超える回答があったが、事務局の想定に対して回答数は多かったのか。

<事務局>

363名から473件と、5年前と比べても多くの意見をいただきました。コロナ禍の影響によりイベント等での対話型パブコメの実施が難しい状況であったが、オンライン授業での実施など新しい取組も実施した結果、多くの意見をいただけて良かったと考えている。

<木村委員>

計画作りに役立つ意見を、数多くいただけていると思う。

<金田委員>

たくさんの意見をいただけて、改めてパブコメを実施した意味があると思った。パブコメが形骸化することもあるが、しっかりと市民に伝えて、市民の声をいただき、計画に反映させることに意味がある。動画配信に加えて、対話型パブコメにより、若い世代の声を聴く機会を作られたのが良い取組だと思う。一般的なパブコメでは、どうしても年齢層が高い世代の声が多くなるが、若い世代の声を聴くのは、今回の計画の狙いにも合っている。他の審議会等でも今回のような取組を使えると良いと思う。事務局として、今回の取組を通じて、良かったと思うことや効果を教えてほしい。

<事務局>

大学との連携は以前にもあったが、中学校と連携したのは新しい取組である。中学生からもしっかりと意見をいただけている。また、YouTubeによる動画配信も新しい取組である。YouTubeのコメント欄で意見受付を行ったが、意見数は0件であった。他の人にコメントを見られることが、書き込みの障害になったのかもしれない。今回、動画を大学生に作成いただいたが、動画への反響も大きく、取り組んで良かったと思う。

<事務局>

資料2を見ていただくと、一つ一つの御意見が具体的であることが分かる。授業での対話型パブコメ等のアウトリーチ活動を行うことで、内容をよく理解いただいた上で、具体的な御意見をいただけたと思う。

<内田座長>

中学校の授業での対話型パブコメにオンライン参加した。担当の先生が社会科の授業とうまく関連付けながら、社会に意見を伝える方法等を説明されていた。中学生が自身の学んでいることの意味も含めて、社会の一員として実感をもって考えてくれた意見が多いように感じた。

<乾委員>

パブコメの意見提出を、大学の授業の最終レポートの一つとした。しっかりと意見が出てきたのは良かったが、これだけ多くの意見が集まると、内容を確認し、整理して、次に反映させるには時間がかかるため、どれくらいの時間が適切なのかをしっかりと考えた方がよい。今後、いただいた意見を行政がしっかりと反映するためにも、意見反映時間も含めたパブリックコメントの適正期間を考えた方がよいと思う。事務局として、今回のパブコメでは、どう感じておられるか教えてほしい。

<事務局>

確かにパブコメの意見整理には時間がかかっている。これほど多くの意見を計画に反映するには、もう少し時間をかけて丁寧に行いたいと思う。一方で、計画への反映だけではなく、計画を推進する上で、例えば、来年度のフォーラムで意見を詳細分析するなど、策定後も意見を活かすことができると考えている。

<事務局>

パブコメの意見の反映内容を協議するためにも、一定の期間を区切って整理する必要があると思うが、意見を今後活かしていくことが重要だと考えている。フォーラム会議と一緒に活用方法を考えていきたい。

<壬生副座長>

秋学期の15回の授業を通して、市政参加の事例調査・発表や、学生による授業提案を行った。授業1回分をパブコメに使ったが、遠隔授業であったため、YouTube動画も紹介した。パブコメの意見は、授業の課題レポートとして提出してもらったが、提出率は高く、一人一人しっかりとした意見が書かれていた。学生の感想として、良い経験になったという声が多くあり、今後の学生の取組につながることを期待している。そして、提出したパブコメの意見が、計画にどのように反映されるかを学生は気にしているので、反映結果について、分かりやすい情報提供を事務局にはお願いしたい。また、そうすることで、学生の継続的な市政参加につながると思う。

<兼松委員>

膨大な量の意見が集まった場合、フィードバックの方法も色々あると思う。計画への反映には時間がかかると思うが、それまでの過程に、AIやテキストマイニングなどを活用して、集合知等の速報値を出せると良いのではないか。多くの意見を集めようとする、人的リソースに負担がかかり易いので、新しいテクノロジーをうまく活用することで、事務局側に負荷をかけずに効果的に実施できるようになると良いのではないか。

<内田座長>

意見を書いてから反映結果が分かるのに、いつまで関心を持ち続けられるか、時間的制約もあるので、速報性の観点は面白いと思う。

<森川副座長>

地域景観づくり協議会の定例会で、対話型パブコメを2回実施した。地域景観づくり協議会のメンバーは、普段から行政とつながりがあるため、パブコメを形式的なアライバイ作りとして行っていないか、また、計画や施策に反映できる深い意見は対話を積み重ねないと出ないのではないか、という2つの意見が印象的であった。

<菅谷委員>

今回のパブコメの意見数は、通常よりも多いのではないか。過去、民泊条例のパブコメに地域ぐるみで参加したことがあり、皆の意見が条例に反映され、パブコメの力を感じた。市民参加推進計画は、対象領域が広く、数年かけて形にする取組が多々あるため、早く形にして成果を出すのは難しいことだと思う。

<木村委員>

対話型パブコメは、市民参加の意識が出るので良いと思う。対話せずに、パブコメ冊子を渡すだけだと、情報が一方通行になり、分かり難いなど否定的な印象を持たれた。今回

の議論で出ているように、対話型で行うなど、情報の双方向性や参加したという実感を持ってもらうことが大事だと感じた。パブコメは広く意見を集めたいが、人数が少なくても、良いコミュニケーションをして意見をもらうことが大事だと思う。

<嶋倉委員>

対話型のパブコメは楽しく、これが市民参加だと思った。しかし、SNSでパブコメを共有した際には、何を書けば良いか分からないという反応が多かった。対話型の機会が増えれば、大学生でも興味を持って関わる方が増えると思う。

<橋本委員>

対話型パブコメにオンライン参加した。オンラインで時間制限があることで、話し足りないと思う反面、限られた時間の中で密度濃く話せたのは良かったと思う。また、パブコメは、意見の数ではなく、意見の多様性が大事であることを実感した。多様な意見になると、反映が難しくなるが、パブコメの意義はそこにあると思う。

<森本委員>

パブコメの冊子があり、裏に意見募集用紙があることで、意見を書いて提出しようと思った。また、対話後の振り返る手助けにもなるので、冊子にも十分意味があると思う。

<荒木委員>

パブコメは、敷居が高いものに見えやすい。書いて伝えることは、得意不得意の幅があると思う。本件に限らず、パブコメのあり方として、テキストを書かせるよりも、ヒアリングやインタビューベースのものが広がると良いと思う。パブコメにテキストマイニングを活用する先行研究もあり、面白いと思った。事務局でテキストマイニングをすることは難しいと思うが、何かしら取り組めると面白い。

<森実委員>

パブコメの活かし方として、今後5年間の計画推進に使うことや速報版などが議論に出ていたが、そもそもパブコメには募集期限が要るのか。意見を聴いて継続的に活かし続けられるのであれば、例えば、市政参加の窓口が常に開かれていて、常に意見を改善に使いつけるという手段があっても良いと思う。

議題(2) 第3期京都市市民参加推進計画(案)について

<内田座長>

次に、議題2に入りたいと思う。事務局から資料の説明をお願いします。

<事務局>

(資料3「計画(案)のポイントについて」、資料4「第3期京都市市民参加推進計画(案)」説明)

<内田座長>

これから、3つのグループに分かれて、ご議論いただきたい。全項目を議論することは難しいため、4つのポイントで議論いただきたい。1つ目は、用語等の凡例・コラムについて、どんな言葉をどのように説明すると良いのかを議論いただきたい。2つ目は、成果指標について、考え方やどのような成果指標を示すと良いのかを議論いただきたい。3つ目は、推進施策について、施策内容に漏れはないのかを議論いただきたい。4つ目は、調査・分析の部分について、調査分析内容に漏れはないのかを議論いただきたい。

<乾委員>

数値目標を持つべきかという議論から始めても良いのか。それとも、数値目標は立てるべきという議論から始めるのか。

<事務局>

数値目標なり指標をどう持つのかという前提で進めていただきたい。

<乾委員>

議論を十分にしていない中、数値を入れる前提であれば、その数値の意味合いをしっかりと理解しておきたい。

<事務局>

数値目標を入れたいと考えているが、その内容については議論いただきたい。現状案では、市民の活動を数値化するのではなく、公金を使う行政の事業について数値化している。どのような位置付けで、どのような数字が良いのかを議論いただきたい。

<内田座長>

資料4の15ページに示されている数値の妥当性は、どう判断すれば良いのか。

<事務局>

行政側で設定できる数値を示している。事業実施に関わる数値を仮置きしているため、この数値の精査は必要ないと考えている。

<内田座長>

目標値の数値ではなく、項目案を出す方が良いということか。

<事務局>

項目案に加えて、市民の皆さんと共有できる数値案も議論いただきたい。現状案は、行政の事業に関する数値を記載している。

<乾委員>

前提が不明な点もあるが、違和感も含めて色々と議論したい。

<内田座長>

それでは、3グループに分かれて、ご議論いただきたい。

グループ1（内田座長，金田委員，菅谷委員，角田委員，森本委員）

（主な意見）

- ・用語等の凡例やコラムの表示順は、読み易い順番を考える必要がある。
- ・凡例とコラムの書き分けについて、その違いを一言書いた方が良い。
- ・説明する用語の量をこれ以上増やさず、大事な用語を丁寧に説明した方が良い。
- ・重視する視点1の市民協働ファシリテーターの活躍に関して、場の創出と、施策への反映を2段階に分けて記載した方が良い。
- ・重視する視点2のお宝バンクの提案数に関して、これまで取り組んできた人に加えて、若い世代など色々な人が提案していることが分かるような視点があった方が良い。

グループ2（壬生副座長，荒木委員，森実委員，木村委員，嶋倉委員）

（主な意見）

- ・指標は、行政だけで完結するのではなく、市民と共に目指せる指標を掲げた方が計画の趣旨に合う。
- ・数を増やすだけではなく、質を重視する指標を考える必要がある。
- ・市民参加の広がりや深まりを、どのように数値化するかをよく考えた方が良い。
- ・凡例やコラムで用語説明をしているが、資料4の14ページのリード文は、第3期計画の考え方を示す大事な内容であり、用語を知らなくても理解できる文章の方が良い。

グループ3（森川副座長，乾委員，兼松委員，橋本委員）

（主な意見）

- ・拙速な議論のまま指標を決めて、施策の目指す所と指標がずれるのは良くない。
- ・指標設定を行うこと自体は良いが、指標を立てるための哲学が不足している。
- ・市民参加をどのような切り口で評価するのかを考えた方が良い。例えば、コロナ禍でセーフティネットが弱まった分、大きくなった社会課題を、市民参加の力で解決する場合には、どのような指標が必要なのかという視点で考える。

- ・現状案でも、指標が高くなればどのような結果になるかを分析した上で、設定する方が良い。間違った指標を目的化することが、最も良くない。
- ・1年間の暫定の目標値にして、1年後には見直す、または新しい指標を追加するなど、柔軟な設定にすることはできないか。
- ・計画全般的に、パブコメの意見を反映している所が多いので、パブコメの意見をしっかりと反映していることをPRしても良いのではないか。

<内田座長>

指標については、今までのフォーラム会議であまり議論できていないので、事務局の方で今回の議論を踏まえた内容反映をしていただきたい。今後の予定について、事務局から説明をお願いします。

<事務局>

本日のフォーラムでの議論や、2月市会中に行われる市会での議論を踏まえ、最終の計画案を作成する。市会日程の関係で、3月23日に開催予定の第5回フォーラム会議の前に最終案を取りまとめなければならない。そのため、今後の計画案の作成状況等は、メールやSlack等を用いて、随時共有させていただくので、その間も、ご助言等いただきたい。

4 報告事項

報告事項(1)

<事務局>

(資料5「令和2年度第1回市民公募委員サロンだより」報告)

報告事項(2)

<事務局>

(資料6「市民参加に関係する新しい事業や取組」報告)

<内田座長>

以上で本日の議題、報告事項は終了となる。皆さん、どうもありがとうございました。

5 閉会

<事務局>

本日も闊達な御意見、ありがとうございました。第3期京都市市民参加推進計画の内容について、限られた時間の中で議論することの難しさを実感している。本日もパブコメの意見の使い方、パブコメの期限、数値目標の柔軟な運用等、様々なご意見をいただいた。現在、5年に1度の改訂作業を行っているが、その期間や議論の仕方そのものを考え直した方が良いと思えるぐらい、社会の変化速度が速くなっている。第3期計画の策定及びその後の議論の仕方も含めて、引き続き、活発な議論をお願いしたい。

以上